

TANITA

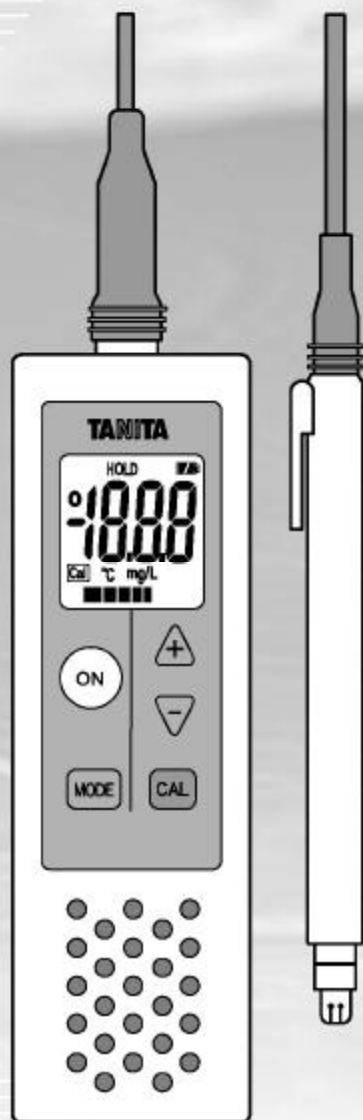
健康をはかる

残留塩素計 EW-510

ミズミルPro

取扱説明書

このたびは、タニタ残留塩素計EW-510「ミズミルPro」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、取扱説明書をよくお読みください。
また、必要なときに読めるように保管してください。





もくじ

● 安全上のご注意	2
● 測定上のご注意	3
● 測定する液体(サンプル液)について	3
● お手入れについて	3
● 付属品の確認	3
● 各部の名称と機能	4
● モード切り替えについて	5
● 正しい使い方	
1) センサーの接続方法	6
2) キャリブレーションモードについて	7
3) 測定方法(残留塩素測定モード)	10
4) 温度表示モードについて	12
5) メモリー表示モードについて	13
6) センサー校正係数登録方法	14
7) オートパワーオフについて	16
8) 電池交換について	16
9) センサーの洗浄方法について	17
10) センサーの交換について	18
11) センサーの保管方法について	19
● 故障かな?	20
● 仕様	22

この取扱説明書ではLCDに表示されるものを「」で表記しております。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、「人が死亡または重傷を負う恐れのある」内容を表示しています。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う恐れまたは物的損害が発生する恐れのある」内容を表示しています。



警告

- 電池は火中に投じないでください。
破裂する恐れがあります。
- 本器を濡れた手で操作したり、水洗いをしないでください。
火災・感電事故の原因になります。
- 過度の衝撃や振動を与えないでください。
破損したり火災の原因になります。
- 前回の校正から1週間経過、または50回の測定ごとに洗浄・校正が必要です。
- 測定の都度センサーを洗浄してください。
プールや浴場など、不純物の多い水を測定した場合、センサーに不純物が付着し、劣化の原因となります。



注意

- 電池の⊕と⊖は正しく入れてください。
液もれや発熱、破裂の恐れがあり、機器の故障、けがなどの原因になることがあります。
- 分解や改造は絶対にしないでください。
感電やけがの原因になります。
- 温度変化の激しい場所、及び保存温度範囲外での保管は避けてください。
故障する恐れがあります。
- 油の中に入れてしないでください。
故障の原因になります。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 残留塩素測定以外の用途での使用は行わないでください。
- センサーの電極部を傷つけないでください。
正しい値を表示出来なくなる恐れがあります。
- センサーの電極部以外は水洗いしないでください。
故障の原因になります。(防水構造にはなっておりません。)
- 冷泉・温泉・鉱泉・井戸水・アルカリイオン水・3mg/L以上の塩素濃度の水、及び強酸性・強アルカリ性の水には浸けないでください。
故障の原因になります。

測定上のご注意

- 測定は、センサーでサンプル液をかき混ぜながら行ってください。
- 測定後は電極部に付いた水を振り払ってください。
- 水道水の測定は可能な限り流水をコップに受けて行ってください。(コップは、200mL以上のガラス製のものをご使用ください。) 溜め水では測定中に塩素濃度が変化する恐れがあり、正確な値を示さない場合があります。プールなどの水を測定する場合にはコップにとらず、可能な限り直接測定してください。
- 購入時には必ず校正を行ってください。
- 校正はDPD試験薬または同等以上の精度を有する方法で行ってください。
(校正に使用するDPD試験薬式残留塩素計は、別途ご購入ください)
- 前回の校正から1週間経過、または50回の測定ごとに洗浄・校正が必要です。
- 測定するサンプル液によっては、校正が1度で正しく行われないことがあります。
この場合は校正を何度か繰り返してください。(7ページ参照)
- 原水のpHが異なる場所で測定する場合は、校正を行ってください。
- 校正時の水温と10℃以上差があるサンプル液を測定する場合、測定誤差を生じる可能性がありますので、再度校正されることをお勧めします。
- 測定は、測定温度範囲内(5.0~60.0℃)のサンプル液で行ってください。
測定温度範囲外では測定できません。
- 周囲の温度と水温に10℃以上差がある場合、電極部を1~3分程度サンプル液につけて電極部をなじませてから測定を行ってください。
- 2つ以上のサンプル液を連続して測定し、かつその塩素濃度に0.5mg/L以上差がある場合、測定値が安定しないことがあります。
- サンプル液が酸性(pH約6.5以下)の場合、残留塩素が含まれていなくても「0.00mg/L」と表示されないことがあります。
- サンプル液によっては、応答性・再現性が悪くなるものがあります。下記の「測定する液体について」を参照してください。
- 気泡が電極部に付着した状態では正確に測定できません。
- センサーを長時間(1時間以上)液体に入れたままにしないでください。センサー劣化の原因となります。

測定する液体(サンプル液)について

- イソシアヌル酸も次亜塩素酸と同様、校正を行うことで測定が可能です。
- プールや浴場など不純物の多い水を測定した場合、センサーに不純物が付着し、劣化の原因となります。測定の都度、センサーの洗浄を行ってください。
- 複数の異なる場所(プールと浴場など)を測定する場合は、測定前にその都度校正が必要です。
- 貯水槽を介して測定する場合は十分に水を流してから測定してください。特に休日明けなど未使用時間が長かった後は、塩素濃度が低くなっている場合があります。
- 冷泉・温泉・鉱泉・井戸水・アルカリイオン水・3mg/L以上の塩素濃度の水、及び強酸性・強アルカリ性の水には浸けないでください。

お手入れについて

- 本器の汚れは、水洗いせずに柔らかい布で軽くふきとってください。
- ベンジン・シンナー・漂白剤は使わないでください。
- 化学雑巾をご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 保管方法は19ページをご参照ください。

付属品の確認

- 残留塩素センサー(EW-510-S)
- 取扱説明書(本書)
- 単4アルカリ(LR03)乾電池4本
- 保証書

各部の名称と機能

センサー取付溝(側面)
センサークリップをスライドして本体に取付られます。

ストラップ取付穴(側面)

液晶表示部 *下図参照

+- ボタン

校正時の数値入力やメモリーの呼び出し等を行います。

ONボタン

電源のON/OFFを行います。

MODEボタン

モードの切り替え等を行います。

キャリブレーションボタン

電源オフ時に(ON)と同時押しによりキャリブレーションモードへの切り替えを行います。

乾電池取付部(裏面)

単4アルカリ(LR03)乾電池4本を入れます。

ストラップ取付穴(側面)

センサーケーブル
(約1m)

センサーコネクター
本器とセンサーを接続します。

センサークリップ

電極部
サンプル液の残留塩素を検出します。

保護キャップ

本器

センサー

液晶表示部について

センサー校正係数登録時に表示します。

温度表示時に表示します。

キャリブレーションモードとセンサー校正係数登録時に表示します。

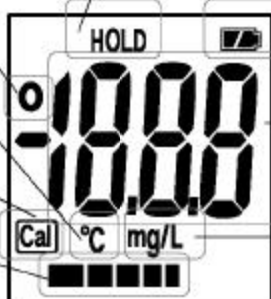
センサーの使用回数をバーで表示します。

残留塩素安定時に表示します。

電池残量を表示します。

残留塩素値及び温度を表示します。

残留塩素表示時に表示します。



モード切り替えについて

本器は **MODE** を押すことにより、残留塩素測定モード、温度表示モード、メモリー表示モードに切り替えることができます。

電源OFF時に **ON** を押す。

残留塩素測定モード

残留塩素濃度の測定を行います。

MEMO

HOLD後に切り替えた場合はHOLDした数値が表示されます。再度測定を行う場合は電源を入れ直してください。この場合、電源を切った時点でセンサーを水から出し、電極部に付いた水を振り払ってください。



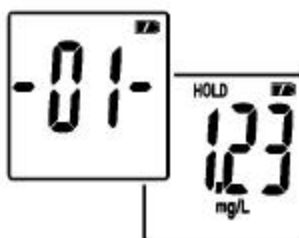
MODE を押す



温度表示モード

サンプル液の温度を表示します。

MODE を押す



メモリー表示モード

メモリーされた測定値を表示します。

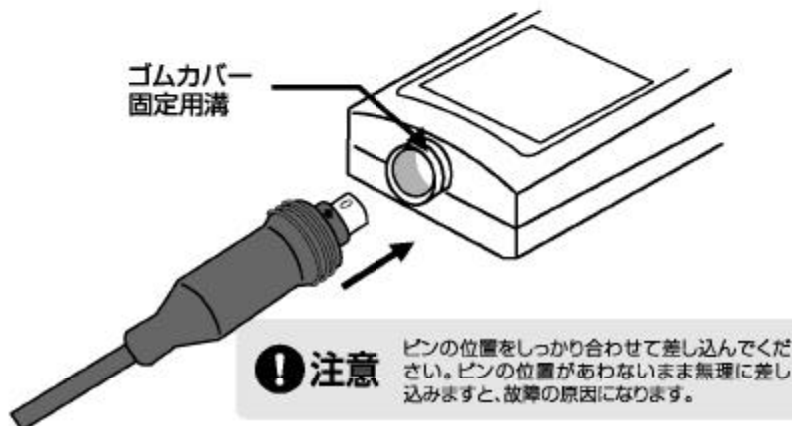
MODE を押す

正しい使い方

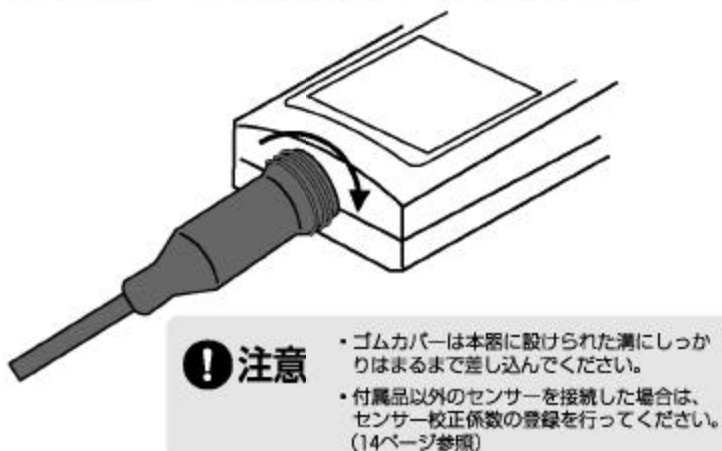
1) センサーの接続方法

電源が切れていることを確認し、本器とセンサーを次の手順に従って接続してください。また濡れた手や汚れた手でコネクタに触れないよう十分注意してください。

本器のコネクタとセンサーコネクタのピン位置を合わせて差し込みます。



たわんでいるゴムカバーを回転させ、コネクタをしっかりと覆います。



正しい使い方

2) キャリブレーションモードについて

センサーの校正を行うためにキャリブレーションモードがついています。校正はDPD試薬式または同等以上の精度を有する方法で行ってください。前回の校正から1週間経過、または50回以上の測定ごとに洗浄・校正をしてください。

MEMO

DPD試薬式残留塩素計は0.01mg/L単位で表示されるものを使用していただくと、より正確に校正できます。

測定前に準備していただくもの



サンプル液

- プール、浴場などの水を測定する場合、コップにとっていただく必要はありません。



- DPD試薬式残留塩素計または同等以上の精度を有するもの

本器

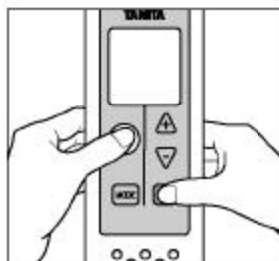
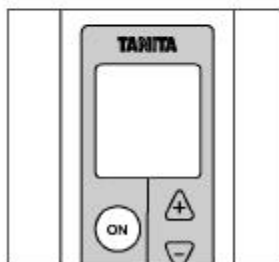
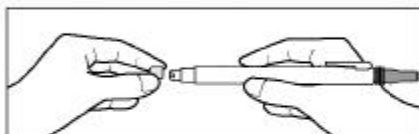


！ 注意

- ・キャリブレーションの登録範囲は0.30～1.50mg/Lですので残留塩素濃度が0.30～1.50mg/Lの校正水を使用してください。この範囲を外れる水道水及び蒸留水、浄水等は校正水として使用しないでください。
- ・水道水の場合、30秒以上水を流し続け、その後の水を校正水としてご使用ください。
- ・プール、浴場などの水を測定する場合、それらの水を直接校正水として使用できるため、コップにとっていただく必要はありません。

正しい使い方

校正水の残留塩素濃度をDPD試薬式残留塩素計で測定し、数値を記録してください。



！ 注意

DPD試薬式残留塩素計の測定は、それに付属した取扱説明書に従って行ってください。

保護キャップをとってください。

電源OFFを確認してください。

○ON と CAL を同時に押してください。
(約2秒)

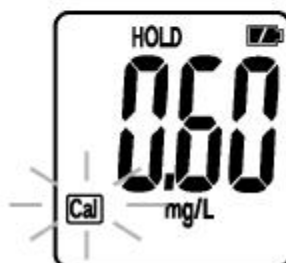
表示に「Cal」が点滅します。

電極部を水面から3cm以上校正水に入れ、かき混ぜてください。
(目安:2回転/秒以上)

正しい使い方



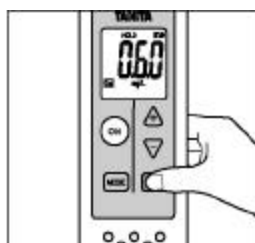
約15秒後「HOLD」が点灯し、数値がHOLDされます。



HOLDした数値がDPD試薬式の測定値と異なる場合、△・▽で同じ数値を入力します。

例 DPD試薬式の測定値が0.60mg/L (0.60ppm)の場合、本器の△・▽で0.60mg/L (0.60ppm)を入力します。

MEMO △ または ▽ を長押しすると数値を早送りすることができます。



CAL を押して登録します。



「Cal」が点滅から点灯に変わります。

3秒後

校正終了です。

約3秒間、表示画面が点滅し電源がOFFします。

！ 注意

- 誤ってキャリブレーションモードに入ってしまった場合は、ONで電源をOFFしてください。
- キャリブレーションモード時はMODEを受け付けません。

正しい使い方

3) 測定方法(残留塩素測定モード)

測定前に準備していただくもの



サンプル液

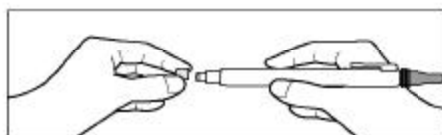
- プール、浴場などの水を測定する場合、コップにとっていただく必要はありません。

本器

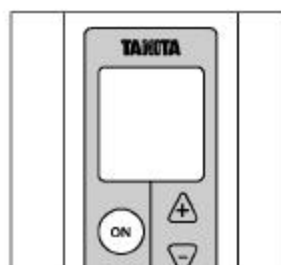


注意

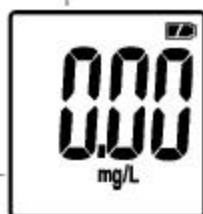
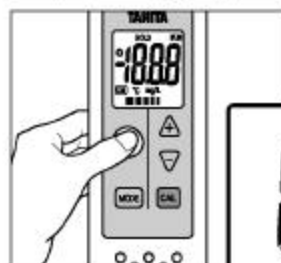
- ・ 水道水の場合、30秒以上、水を流し続け、その後の水をご使用ください。
- ・ 周囲の温度と水温に10℃以上差がある場合、電極部を1～3分程度サンプル液につけて電極部をなじませてから測定を行ってください。



保護キャップをとってください。



電源OFFを確認してください。



○ を押して電源を入れます。
LCDが全点灯し約2秒後に
測定可能状態になります。

正しい使い方



電極部を水面から
3cm以上サンプル液に
入れ、かき混ぜます。
(目安:2回転/秒以上)

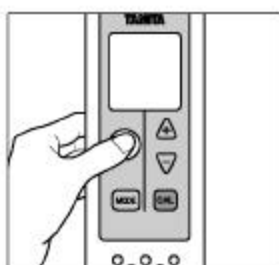
！ 注意

- コップは200mL以上のガラス製のものを使用してください。
- 測定はセンサーでサンプル液をかき混ぜながら行ってください。(目安:2回転/秒以上) かき混ぜずに測定を行った場合センサーの反応スピードが低下するため、正しい値を示さないことがあります。

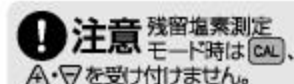
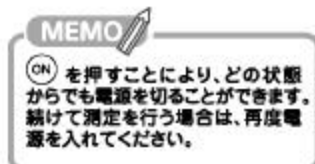
測定中



約15秒後、「HOLD」が
点灯し、数値がHOLD
されます。



ON を押すと電源が
切れます。
測定を終了します。



！ 注意

- 測定後はセンサーの水を振り払い、保護キャップをつけて保管してください。
- 前回の校正から1週間経過、または50回の測定ごとに洗浄・校正が必要です。(洗浄方法は17ページ参照)
- プールや浴場など不純物の多い水を測定した場合、センサーに不純物が付着し、劣化の原因となります。測定の都度、センサーの洗浄を行ってください。

正しい使い方

4) 温度表示モードについて

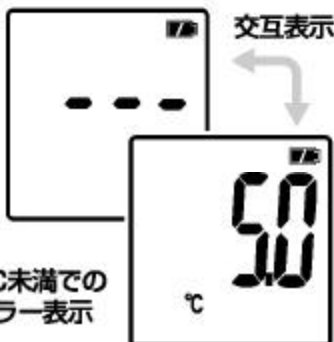
残留塩素センサーでサンプル液の温度を測定することが可能です。



MODE を押して温度表示モードに切り替えます。

！ 注意

このモードに入ると残留塩素の測定は中断されます。



5℃未満での
エラー表示

温度を測定したいサンプル液にセンサーを入れてください。サンプル液の温度が表示されます。

！ 注意

測定範囲は5.0℃～60.0℃です。測定範囲を超えた場合は、次のように表示されます。

5℃未満のとき:「---」、「5.0℃」が交互表示

60℃を超えるとき:「---」、「60.0℃」が交互表示



60℃以上での
エラー表示

！ 注意

- 温度センサーが安定するまで時間がかかる場合があります。
- 温度表示モード時は **CAL**、**△**、**▽** を受け付けません。

正しい使い方

5) メモリー表示モードについて

本器は、残留塩素測定モードでHOLDした数値が自動的にメモリーされます。メモリーされた数値は、メモリー表示モードで呼び出すことができます。

MODE を押してメモリー表示モードに切り替えます。



！ 注意 メモリーされる数値は、残留塩素測定モードでHOLDされたときの値になります。
(エラー表示はメモリーされません)

測定値が1件もメモリーされていない場合は、「-00-」の表示で固定されます。前回測定した値がある場合、「-□□-」と「□.□□mg/L、HOLD」が交互に表示します。

！ 注意

- ・メモリー表示モードに切替時は前回の測定値を表示します。
- ・測定範囲外(2.01mg/L以上)の測定結果の場合は、「201mg/L」と保存されます。

+ : メモリー番号アップ
- : メモリー番号ダウン

△・▽ により、前回、前々回・・・と過去の測定結果を呼び出します。

！ 注意

- ・測定値は、メモリー番号「-01-」から順にメモリーされます。10個測定値をメモリーした場合、メモリー番号「-10-」が直近の測定値になります。
- ・測定値は最大50個メモリーすることができます。メモリー数が50個以上になると古いメモリーに新しい測定値を上書きします。(「-01-」から順に上書きします)
- ・メモリー表示モード時は **CAL** を受け付けません。

MEMO

電池を交換してもメモリーは保持されます。

メモリーの初期化方法

メモリー表示モードで **△・▽** を約2秒間同時に押し続けると、「**LLr**」が点滅表示します。

ここで、**CAL** を押すと「-00-」表示になり全てのメモリーが消去されます。
その後約3秒点滅して電源がOFFします。

！ 注意

- ・「**LLr**」点滅中に **ON** を押すと強制OFFします。また、**MODE** を押すと残留塩素測定モードに切り替わります。これらの操作を行ったときは、メモリーは消去されません。
- ・「**LLr**」点滅中は **△・▽** を受け付けません。

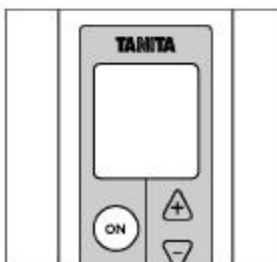
正しい使い方

6) センサー校正係数登録方法

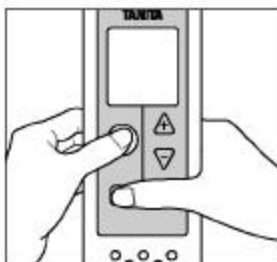
センサーが破損、または劣化してセンサー交換が必要になった場合(18ページ参照)、別売りの残留塩素センサー(EW-510-S)をご購入ください。センサーを交換する場合は、必ずセンサー校正係数の登録、及び校正を行ってください。登録、及び校正を行わなかった場合、正しい測定を行うことができませんのでご注意ください。

！ 注意

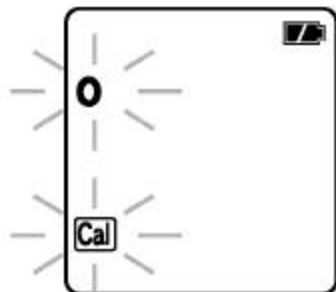
- ・残留塩素センサーはセンサーごとに異なった特性を有しているため、センサー交換時は、必ずセンサー校正係数の登録を行ってください。
- ・センサーの接続方法(6ページ)にしたがってセンサー交換を行ってください。



センサーの接続と
電源OFFを確認してください。

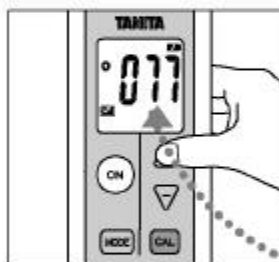


MODE と ON を同時に押してください。
(約2秒)



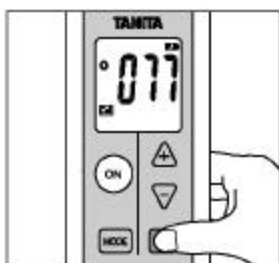
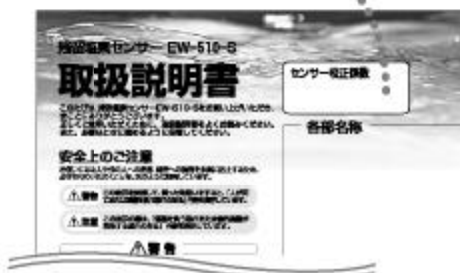
「Cal」と「O」が同時点滅します。
センサー校正係数登録モード
になります。

正しい使い方



▲・▼ボタンによりセンサーの取扱説明書に記載された3桁の数値を入力します。

例 センサー校正係数
077



入力が完了しましたら、**CAL**を押します。
センサー校正係数が登録され「Cal」と「O」が点灯に変わります。その後、約3秒点滅して電源がOFFします。

！ 注意

- ・センサー校正係数登録後は、キャリブレーションモードで校正を行ってください。
- ・校正を行った場合、登録したセンサー校正係数が変更になることがあります。異常ではありません。この時センサー校正係数を元に戻したり、変更しないでください。
- ・センサー校正係数登録モード時は、**MODE**を受け付けません。

MEMO

- ・出荷時は、付属されているセンサーの校正係数が予め登録されています。誤ってセンサー校正係数登録モードに入ってしまった場合は、**ON**で電源をOFFにしてください。

正しい使い方

7) オートパワーオフについて

本器は、電池を節約するため、最終有効ボタン操作から約10分経過すると電源がOFFするオートパワーオフ機能を備えております。再度使用する場合は、もう一度電源を入れてください。(ただし、メモリーの初期化、キャリブレーション、センサー校正係数登録の決定操作を行った後は約3秒点滅して電源OFFします。)

8) 電池交換について

本器は単4アルカリ(LR03)乾電池を4本入れることにより動作します。電池が消耗すると、電池残量マークが減少し、電池残量が少なくなっていることをお知らせします。さらに電池が消耗すると「Lo」を表示し、電源スイッチ以外動作しなくなります。使用推奨期間内の新しい電池と交換してください。電池残量マーク表示は3段階に分かれています。

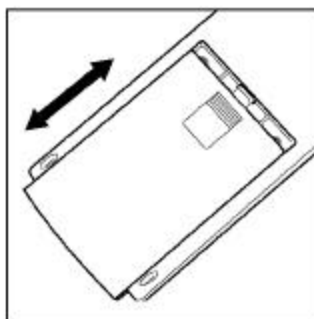
: 電池は十分使える状態です。

: 電池残量が残わずかなため、電池の交換をおこなってください。

: 「Lo」が点灯し、測定は不可能な状態になります。
電池の交換を行ってください。



電池の入れ方



電源をOFFします。

本器裏面の電池ふたを押しながら、図のように約5mmスライドさせます。

ふたをもちあげて取り、新しい単4アルカリ(LR03)乾電池を4本入れます。

❗ 注意

⊕ と ⊖ の向きを反対に入れると発熱し、危険ですので十分ご注意ください。また、電池ふたは真上から押し込みず、スライドしながら入れてください。

図のように約5mmずらしてふたをかぶせます。スライドさせて、ふたを閉めます。

❗ 注意

乾電池は4本とも同時に使用推奨期間内の新しい単4アルカリ(LR03)乾電池と交換してください。また、アルカリ電池とマンガン電池の併用はおやめください。(液漏れなど故障の原因になります。)

正しい使い方

9) センサーの洗浄方法について

洗浄は50回の測定ごとに行ってください。プールや浴場など不純物の多い水を測定した場合、測定の都度、センサーの洗浄を行ってください。

測定前に準備していただくもの

水

100mL程度



中性洗剤

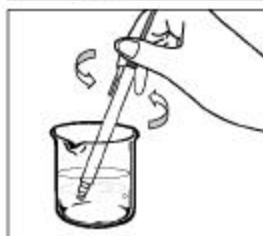
中性洗剤またはコンタクト
レンズ用洗浄液(タンパク
質分解酵素入り)



本器



100mLに2～3滴を目安に入れてください。
*コンタクトレンズ用洗浄液(タンパク質分解
酵素入り)は原液のままご使用ください。



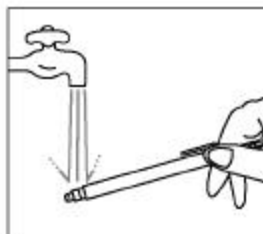
電極部を洗浄液に浸け、かき混ぜてください。
(1分以上)

！ 注意

- ・センサーを洗浄液に浸したまま
放置しないでください。
- ・超音波洗浄後は一時的にセンサー出力が増加する
ことがありますので、半日放置してから校正・測定
を行ってください。

MEMO

- ・電極部の汚れがひどく、落ちない
場合には、超音波洗浄機で約10分
洗浄してください。
- ・超音波洗浄を行う場合、お湯(40～50℃)に中性洗
剤を2～3滴入れると、より洗浄力が強まります。



洗浄後は、水道水で洗剤を十分に洗い流して
ください。



電極部に付いた水を振り払ってください。

正しい使い方

10) センサーの交換について

センサー(EW-510-S)について

残留塩素センサー(EW-510-S)は消耗品です。センサーが劣化するとセンサー出力が安定せず、正しい値を示さなくなります。2年間、または5,000回の使用をめぐに交換してください。



本器は、センサーの使用回数を確認できるようにセンサー使用回数をバーで表示します。センサー交換の目安にしてください。

	 0回～999回使用
	 1,000回～1,999回使用
	 2,000回～2,999回使用
	 3,000回～3,999回使用
	 4,000回～4,999回使用
	 5,000回以上(点滅表示)



注意

センサー使用回数バーは、センサー校正係数を入力することで初期化されてしまうのでご注意ください。

センサーは、センサーごとに異なった特性を有しています。そのため、センサーが破損、または劣化して新しいセンサーに交換する場合は、必ずセンサー校正係数の登録(14ページ参照)と、校正を行ってください。センサー校正係数の登録、及び校正を行わなかった場合、正しい測定を行うことができませんのでご注意ください。

正しい使い方

11) センサーの保管方法について

○短期保管する場合

〈水道水を測定した場合〉

測定後は電極部の水を振り払い、保護キャップをつけて保管してください。

〈プール、浴場及び汚れのある水などを測定した場合〉

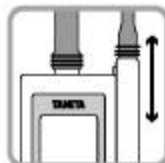
プールや浴場など不純物の多い水を測定した場合、センサーに不純物が付着し、劣化の原因となります。測定の都度、センサーの洗浄を行ってください。洗浄は中性洗剤やコンタクトレンズ用洗浄液（タンパク分解酵素入り）で1分以上、または超音波洗浄機で約10分洗浄してください。その後、布などで水気を取り保護キャップを付けて保管してください。

○長期（1週間以上）保管する場合

センサーを中性洗剤やコンタクトレンズ用洗浄液（タンパク分解酵素入り）で1分以上、または超音波洗浄機で約10分洗浄し、布などで水気を取り保護キャップを付けて保管してください。センサーは直射日光や高温多湿を避け、室温で保管してください。再度使用する場合は、センサーを1～3分程度サンプル液に浸けて電極部をなじませた後、センサーを水から出し、電極部に付いた水を振り払い、校正を行ってから測定してください。

！ 注意

- ・長期保管後、電極部をサンプル液でなじませずに残留塩素濃度の測定を行った場合、センサー出力が安定せず、正しい値を示さない場合があります。
- ・センサーを洗浄液に浸けたまま放置しないでください。



MEMO

センサークリップを本器のセンサー取付溝にスライドして取り付けることができます。

故障かな? 「故障かな!？」と思ったら、修理をご依頼される前に、次のことをご確認ください。

◎ 電源ボタンを押しても、何も表示しない。または「Lo」表示する。

- ・電池は正しく入っていますか? → ・電池を正しく入れてください。
- ・電池が消耗していませんか? → ・「電池交換について」(16ページ)に従って新しい電池に交換してください。

◎ 残留塩素を測定できない。または異常な値を表示する。

- ・センサーが正しく接続されていますか? → ・「センサーの接続方法」(6ページ)に従って正しく接続を行ってください。
- ・センサーに保護キャップが付いていませんか? → ・保護キャップをはずして、測定を行ってください。
- ・校正を行いましたか? → ・「キャリブレーションモードについて」(7ページ)に従って校正を行い、もう一度測定を行ってください。
- ・センサーでサンプル液をかき混ぜながら測定を行っていますか? → ・センサーでサンプル液をかき混ぜながら正しく測定を行ってください。
- ・測定時間が短くありませんか? → ・値がHOLDするまで正しく測定を行ってください。
- ・センサーの電極部に気泡が付いていませんか? → ・気泡を取り除いてから、もう一度測定を行ってください。
- ・サンプル液の温度が水温測定範囲(5℃~60℃)内ですか? → ・水温測定範囲内のサンプル液で測定を行ってください。
- ・サンプル液が低温(約5~10℃)になっていませんか? → ・サンプル液が低温(約5~10℃)の場合は測定値が低く表示される可能性がありますので、測定する温度で校正を行うことをお勧めします。(7ページ参照)
- ・残留塩素が0.5mg/L以上異なったサンプル液を連続で測定していませんか? → ・残留塩素が大きく異なったサンプル液を連続で測定を行うと値が安定しません。センサーをサンプル液になじませてから、もう一度測定を行ってください。
- ・温泉、プール、浴場等を測定していませんか? → ・洗浄してください。
・サンプル液によっては、測定値が安定しないものがあります。「測定する液体(サンプル液)について」(3ページ)を参照してください。
- ・センサーの交換を行った後、センサー校正係数の登録を行いましたか?
・センサーの取扱説明書に記載されている番号を正しく登録しましたか? → ・「センサー校正係数登録方法」(14ページ)に従って、センサー校正係数の登録を行ってください。
- ・電極に汚れがついていませんか? → ・中性洗剤や、コンタクトレンズ用洗浄液(タンパク分解酵素入り)で1分以上、または超音波洗浄機で約10分洗浄してください。
- ・測定後、電極部についた水を振り払いましたか? → ・洗浄してください。
・測定後は必ず電極部についた水を振り払ってください。
- ・センサーを長時間サンプル液や洗浄液に浸けたまま放置していませんか? → ・洗浄してください。
・センサーの劣化の原因になりますので、つけ置きしないでください。

故障かな？

「故障かな!？」と思ったら、修理をご依頼される前に、次のことをご確認ください。

◎ 温度を測定できない。または異常な値を表示する。

- ・センサーが正しく接続されていますか？



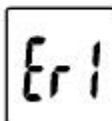
・「センサーの接続方法」(6ページ)に従って正しく接続を行ってください。

- ・サンプル液の温度が水温測定範囲(5℃～60℃)内ですか？



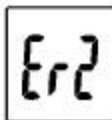
・水温測定範囲内のサンプル液で測定を行ってください。

◎ エラー表示する。



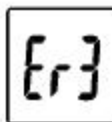
接続不良エラー

本器とセンサーが正しく接続されていません。センサーの接続方法(6ページ)に従って正しく接続を行ってください。



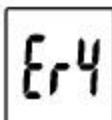
測定温度範囲外エラー

残留塩素測定中のサンプル液が温度範囲外です。測定温度範囲(5.0～60.0℃)内のサンプル液で測定を行ってください。



キャリブレーション登録範囲外エラー

キャリブレーション登録の数値が登録範囲外です。登録範囲(0.30～1.50mg/L)内で登録を行ってください。また測定結果の数値とキャリブレーション登録の時の数値が大きく異なる場合、登録範囲内でもエラーと表示されることがあります。この場合センサーを中性洗剤や、コンタクトレンズ用洗浄液(タンパク分解酵素入り)、または超音波洗浄機で洗浄し、再度校正を行ってください。



センサー校正係数登録数値エラー

センサーの特性上、校正係数としては使用できない数値があるため、間違ってその番号を入力するとエラー表示されます。センサーの取扱説明書に記載されている数値を正しく入力し、登録してください。

仕 様

製 品 名	残留塩素計 ミズミルPro	
型 式	EW-510	
測 定 方 式	ガルバニ式	
セ ン サ ー 電 極	白金、塩化銀	
残留塩素測定範囲 (遊離残留塩素)	0.00~2.00mg/L 最小表示0.01mg/L	
	2.01mg/L以上は「2.01mg/L」点滅表示	
水 温 測 定 範 囲	5.0~60.0℃ 最小表示0.1℃	
	再現性:±1℃(安定時)	
保 存 温 度 範 囲	0~40℃ (周囲温度)	
検 水 条 件	p H 範 囲	5.8~8.0
	導 電 率 範 囲	50~1000μS/cm
	測 定 対 象	水道水
電 池 寿 命	1日50回使用で約1年間	
機 能	キャリブレーション機能(0.30~1.50mg/L)	
	オートパワーオフ10分(最終有効ボタン操作後)	
	温度表示機能	
	メモリー機能	
	電池残量検知機能	
外 形 寸 法	本 器: 165×56×27mm	
	センサー: φ12×160mm	
質 量	約220g(電池含む)	
材 質	本 器: ABS	
	センサー: 耐熱ABS	
液晶表示部サイズ	29×33.5mm	
センサーコード	約1m	
電 源	DC6V 単4アルカリ(LR03)乾電池4本	
付 属 品	取扱説明書	
	単4アルカリ(LR03)乾電池4本	
	保証書	
	残留塩素センサー(EW-510-S)	

再現性(25℃のとき)

0.00~0.80mg/L	±0.05mg/L
0.81~1.50mg/L	±0.10mg/L
1.51~2.00mg/L	±0.15mg/L

- ・デザイン・仕様等は、予告なく変更することがあります。
- ・付属の乾電池はモニター用ですので、寿命が短い場合があります。



MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

info: **ベストウェイト健康講座**  www.best-weight.ne.jp

株式会社 **T=7**

本社・東京営業所	〒174-8630	東京都板橋区前野町1-14-2	☎03 (3558)6111(代)
大阪営業所	〒577-0013	東大阪市長田中1-3-15	☎06 (6784)2911(代)
名古屋営業所	〒460-0002	名古屋市中区丸の内2-18-20	☎052(201)6391(代)
福岡営業所	〒816-0062	福岡市博多区菱野4-2-6	☎092(575)5761(代)
仙台営業所	〒983-0852	仙台市宮城野区権岡1-8-9	☎022(299)7161(代)
札幌営業所	〒007-0834	札幌市東区北34条東22-1-35	☎011(786)5611(代)

ホームページアドレス <http://www.tanita.co.jp>

お問い合わせ先

フリー
ダイヤル



0120-133821

受付時間 / 9:00~18:00 (土・日・祝祭日は除く)

お客様サービス相談室 〒174-8630 東京都板橋区前野町 1-14-2